

調査研究報告書

研修項目：10月25・26日 第18回全国市議会議長会研究フォーラムin北九州
10月26・27日 「環境未来都市」北九州の取り組み 視察
日 時：令和5年10月25日（水）～27日（金）まで
場 所：福岡県北九州市
参加者：林 正則議員、藤沢 巖議員、中山貴弘議員

1 内容

◇第18回全国市議会議長会研究フォーラムin北九州について

場所：西日本総合展示場 新館

(1) プログラムについて

(第1日目)

- 13:00 開会式（参加者数2,399人）
- 13:20 基調講演 「躍動的でワクワクする市議会に」 片山善博 氏
- 14:40 パネルディスカッション 「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」
コーディネーター 谷隆徳 氏
パネリスト 勢一智子 氏・辻陽 氏・濱田真里 氏・田仲常郎 氏
- 16:40 次期開催地挨拶 （盛岡市）
- 16:50 終了
- 17:15 意見交換会
- 18:15 意見交換会終了

(第2日目)

- 9:00 課題討議 「議員のなり手不足問題への取組報告」
コーディネーター 江藤俊昭 氏
パネリスト 辻弘之 氏・たぞえ麻友 氏・永野慶一郎 氏
- 11:00 閉会式

(2) フォーラムの内容について

【基調講演】 「躍動的でワクワクする市議会に」

片山 善博 氏 （大正大学教授兼地域構想研究所長）

- ・地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会改革を検証する
- ・日本の地方議会に欠けていることは何か
- ・現行の議会の権限を活用してもっと積極的に取り組むべきこと
- ・議会の常識と市民の常識をすり合わせる-市民が首を傾げることは
- ・今ふり返って議会に感謝していること

【パネルディスカッション】 「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」

<コーディネーター> 谷 隆徳 氏 (日本経済新聞編集委員)

<パネリスト> 勢一 智子 氏 (西南学院大学法学部教授)、辻 陽 氏 (近畿大学法学部教授)
濱田 真里 氏 (Stand by Women代表)、田仲 常郎 氏 (北九州市議会議長)

- ・統一地方選を振り返る：投票率は低下傾向が続き、41道府県議選41.85%、294市議選44.26%、373町村議選55.49%といずれも過去最低となっている。しかしながら、女性議員の増加が特徴であり、市議選においては当選者全体の22%を占めている。また、依然として無投票当選が多く、市議会では237人(全体の3.6%)、長野県岡谷市では定数割れとなった。
- ・多様な人材の議会への参画については、立候補環境及び議会環境の整備、議員へのモチベーション醸成、多様な経験をした多様な世代が参画できることが重要である。
- ・議員のなり手不足問題における小規模自治体の課題として、議員報酬の増額が困難であることが挙げられる。小規模自治体ほど財政力指数も低く、一般会計に占める議会費の割合が大きい傾向にある。
- ・地方議員に対するハラスメントの現状について、立候補を検討中、または準備中に、有権者や支援者、議員等からハラスメントを受けた人は、全体の61.8%、男性58%、女性65.5%であった。(内閣府男女共同参画局「女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書」)
ハラスメント案件が議会等に持ち込まれた際に、ルールや基準を設けていない場合、対応が非常に困難になる。ハラスメント倫理条例等の制定を行い、ルールづくりをしておくことが重要である。
- ・北九州市議会では、議会報告会を進める中、平成30年から「議員とまちを語ろう」と題して計4回の意見交換会をショッピングモール等で開催してきた。

【課題討議】 「議員のなり手不足問題への取組報告」

江藤 俊昭 氏 (大正大学社会共生学部公共政策学科教授)

- ・統一地方選挙からみる地方政治の現状
- ・議員のなり手不足は住民自治の劣化を招く - なり手不足の問題を再確認する
- ・国政を侵食する草の根民主主義の衰退

<事例報告者> 辻 弘之 氏 (登別市議会議長)、永野 慶一郎 氏 (枕崎市議会議長)

たぞえ 麻友 氏 (一般社団法人WOMAN SHIFT理事 目黒区議会議員)

- ・「ママの議員インターン」を2019年3月に開始し、21年に全国展開開始。受入れ議員数は延べ28名で、約140名のママが体験。概要は、区政の当事者であるママ(在職・育休・専業)に地方議員のもとでインターンに入ってもらおうというもの。議員とインターン生の双方にとってよい効果を生んでいる。

◇「環境未来都市」北九州市の取り組み (Nコース) 視察について

(1) コースポイントについて

北九州市はこれまで産業の発展とともに公害問題に苦しんできたが、現在は「環境未来都市」として国から認定を受け、エコ事業、クリーンエネルギーなど未来の都市づくりに向けて取組を行っている。

<行程> 10月26日（木）

13:00 北九州エコタウンセンター == 14:30 ボートレース若松 ==
15:30 シャボン玉石けん == 17:30 高塔山公園 == 18:45 北九州市内（泊）

10月27日（金）

9:00 小倉駅北口 == 9:45 響灘洋上風力関連施設 == 12:00 八幡区（昼食）
13:00 日本サバイバルトレーニングセンター == 14:30 小倉駅北口

(2) 視察内容について

10/26（木）13:00～18:45

○北九州エコタウンセンター（若松区向洋町10-20）見学

日本の近代産業は、1901年に国内初の本格的近代溶鉱炉を持つ官営八幡製鐵所が操業を開始した北九州市で幕を開けた。北九州工業地帯は、日本の高度成長を支えてきた一方で、1960年代に深刻な産業公害をもたらした。この問題に対して、市民・企業・自治体が一体となって取り組んだ結果、かつては大腸菌すら棲めない「死の海」と呼ばれた洞海湾には、100種類以上の魚介類が戻ってきた。

エコタウン事業とは、ある産業から出る全ての産廃物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる産廃物をゼロにすることを目指し1997年に国で創設されたものである。そのエコタウン事業を生きた教材として活用する環境学習拠点として、北九州エコタウンセンターは、2001年6月に開設された。

エコタウン事業のこれまでの成果として、事業数は26事業、雇用者数は当初目標の800人を上回る約1,000人である。家電リサイクル、蛍光管リサイクル、パチンコ台リサイクル等、多くのリサイクル事業がある中、本年5月、太陽光パネルリサイクル事業が始まったとのことだった。年間9万枚の処理が可能かつパネルのメーカーも問わず全国から引受けが可能ということで、今後、期待が持てる事業であった。

○ボートレース若松（若松区赤岩町13-1）見学

総敷地面積 191.494㎡

施設概要 東スタンド：鉄筋コンクリート4階 座席数985

西スタンド：プレキャストコンクリート造4階 座席数2,610

駐車場 2,763台

全国24か所あるボートレース場で、ナイター営業をしているのは若松を含む7か所のみ。新規ファンの獲得やボートレースのイメージアップを図る目的で、施設内はファミリーや女性の快適性を徹底的に追求していた。最大70人が食事を楽しめるフードコートや女性専用リラクスペースが設けられ、子どもの遊び場「わかわくらんど」は、乳幼児から小学校低学年までを対象に知育玩具等が用意されていた。さらに小学6年生までを対象としたボルダリングパークも整備されており、レース観戦以外の目的で、ファミリーが楽しめるように工夫されている施設であった。

○シャボン玉石けん株式会社（若松区南二島2-23-1）見学

会社沿革

1910年2月 現北九州市若松区「森田範次郎商店」創業

1971年3月 国鉄（現JR）の注文で無添加石けんを試作

1975年3月 シャボン玉石けん発売開始

1987年3月 シャボン玉石けん（株）に社名変更

2010年2月 創業100周年を迎える

2019年12月 北九州市とSDGs包括連携協定を締結

企業理念は「健康な体ときれいな水を守る」であり、人と環境に優しい無添加石けんの普及に努めている企業である。シャボン玉石けんの特徴は、酸化防止剤・着色料・香料・合成界面活性剤を使用しておらず、肌に優しい点である。また、排水として海や川に流れ出ると、短期間で大部分が水と二酸化炭素に生分解される。昔ながらの製法（ケン化法）で作る「無添加石けん」を基に、地球環境と人類のため絶え間ない努力をしているとのことであった。

○高塔山公園（若松区大字修多羅）見学

2022年「日本新三大夜景都市」に認定（2018年に続き2回目）。

また、（一社）夜景観光コンベンションビューローによる調査、夜景観光士1級（夜景マイスター）による投票を経て「日本夜景遺産」にも認定されている。市内にはこのほかに7つの夜景遺産（皿倉山、足立公園、門司港レトロ展望室、若戸大橋、和布刈（めかり）公園第2展望台、小倉イルミネーション、戸畑祇園大山笠）があり、これほど多い都市は珍しい。

高塔山公園の展望台からは若戸大橋や八幡・戸畑・小倉までの工場群などが一望でき、また、桜やアジサイ等花の名所としても有名で、昼夜問わず楽しめる絶景スポットであった。

10/27（金）9:00~14:30

○グリーンエネルギーポートひびき（若松区響町1-122-13 株式会社 北拓）見学

【国の動き】

2012.7 再生可能エネルギー特別措置法 施行

2020.12 洋上風力産業ビジョン（第1次）策定

2021.10 エネルギー基本計画（第6次）策定

2023.6 浮体式産業戦略検討会 設置

グリーンエネルギーポートひびき事業とは、風力発電関連産業の総合拠点形成と発展に取り組むものである。目的は、雇用の創出、日本の風力発電の発展の後押し、カーボンフリーへの貢献である。風力発電関連産業の総合拠点とは、物流拠点機能、製造産業拠点機能、積出・建設拠点機能、O&M拠点機能、以上4つの機能を備えた拠点である。

風力発電に用いる洋上風車は現在「着床式」が主流であるが、今後は水深の深い海域にも対応できるよう、風車を浮かせて設置する「浮体式」について、官民共同で技術開発が進められている。

○日本サバイバルトレーニングセンター（戸畑区銀座2-6-27号 ニッスイ戸畑ビル）見学

「海洋で働く人材育成」「事故による人材損失の防止」「国際的取組への対応」を目的とし訓練に取り組んでいる。日本サバイバルトレーニングセンター（NSTC）は2011年に設立され、2021年には、受講者数が1万人を超えている。NSTCでは、日本語だけでなく英語での訓練も行えるよう国内外のインストラクターを配置している。訓練施設は国際基準を満たしており、洋上サバイバル訓練施設と消火訓練施設から成る。洋上サバイバル訓練施設には縦横14m、深さ5mの温水プールのある訓練棟があり、岸壁には救命艇設備がある。

2 所感

<林 正則議員>

今回初めて、全国市議会議長会研究フォーラムと募集型企画の視察コースに参加した。初めに、大正大学教授の片山善博氏による基調講演では、ポイントとして①地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会改革を検証する、②日本の地方議会に欠けていることは何か、③現行の議会の権限を活用してもっと積極的に取り組むべきこと、④議会の常識と市民の常識をすり合わせる一市民が首を傾げることは、⑤今を振り返って議会に感謝していることをあげられていた。また、パネルディスカッションでは「統一地方選挙の検証と地方議員の課題」をテーマに、4名のパネリストが統一地方選挙の結果を検証した。これらの内容を通して、投票率の低下、無投票当選の多さ、人口減少時代における多様な人材の議会への参画の必要性を改めて認識した。

第2日目は、「議員のなり手不足問題への取組報告」と題した課題討議が行われ、3名の議員（登別市議会・目黒区議会・枕崎市議会）より、それぞれ事例報告があった。特に印象深かったのは東京都目黒区議会の女性議員のハラスメントに関する発表で、「住所の公開が怖い」、「旧姓が使用できない」、「出産と選挙が両立できない」といった自分では思いつかないことが真剣な悩みになっているとの発言があった。本市議会でもハラスメントに対するセミナーや多様な価値観を反映する工夫が必要だと感じた。

フォーラム終了後は、「環境未来都市」北九州市の取り組みについて視察をした。第2日目は、北九州エコタウンセンター、ボートレース若松、シャボン玉石けん等を視察し、北九州市での未来都市づくりに向けたエコ事業の取組を学んだ。

第3日目は、響灘洋上風力関連施設と日本サバイバルトレーニングセンターを視察し、現在建設中の風車や風車の基礎構造物を間近で見られたことは貴重な経験となった。

全国の市区議員の方々の貴重な御意見を伺うとともに、環境先進地である北九州市の多くの施設を視察したことで、自身の視野が広がり、大変有意義であった。

<藤沢 巖議員>

今回参加した研究フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、共通する政策課題などについての情報や意見交換を行うものである。地方分権の時代にふさわしい議会機能の充実と活力に満ちた地域づくりに資することを目的に毎年開催されている。今回は、福岡県北九州市において2日間開催され、全国から2,399名の議員が参加した。

第1日は、大正大学教授の片山善博氏の基調講演があり、テーマ「躍動的でワクワクする市議会に」というものであった。片山氏からは、現行の議会の権限を活用してもっと議員が積極的に議会活動に取り組むべきとの話があり、本市議会でも議案の中身を吟味し、議案を丁寧に審議する必要性を改めて感じた。また、パネルディスカッションでは「統一地方選挙の検証と地方議員の課題」をテーマに、4名のパネリストが統一地方選挙の結果を検証した。このディスカッションを通して、多様な人材の議会への参画やハラスメント対策の必要性を改めて認識した。

第2日目は、「議員のなり手不足問題への取組報告」とのテーマで事例報告と課題討議が行われた。事例報告のうち特に印象深かったのは登別市議会で、議員の「なり手」を育てるために、行政やまちの仕組みを学ぶ勉強交流会を実施し、地方議員養成講座を開催していた。また、午後からは他市の議員約40名とバスに乗り込み、北九州エコタウンセンター等4カ所の環境関連施設を視察し、北九州市の環境研究やリサイクル事業の取組について学んだ。

第3日目は、響灘洋上風力関連施設と日本サバイバルトレーニングセンターを視察した。北九州市は、SDGs未来都市として環境問題に積極的に取り組んでおり、広大な産業用地と港湾施設を有する若松響灘地区では2011年より「グリーンエネルギーポートひびき」事業が開始された。これは日本最大級のウインドファームであり、洋上風力発電の最先端を学ぶことができた。また、日本サバイバルトレーニングセンターは、様々な訓練ができる国際基準の施設であり、受講者が既に1万人を超えていることから、本施設の重要性・必要性を強く感じる事ができた。

今回のフォーラムでは、全国の先進事例や有識者の講義から貴重な知見を得ることができ、併せて多くの施設を視察したことで、自身の視野が広がり、大変有意義であった。日程などが合えば、次回も是非、参加したい。

<中山貴弘議員>

今回の研究フォーラムが開催された北九州市は私の生まれ故郷であり、そこに初めて議員として参加できたことは大変感慨深かった。当日は、北は北海道から南は沖縄県までの市議会議員等、総勢2,399名の参加があり、会場の西日本総合展示場は多くの人の熱気で満たされていた。

1日目の基調講演は「躍動的でワクワクする市議会に」と題し、大正大学教授の片山氏が議会に欠けている3要素を指摘した。1つ目は、議場での真剣な議論が欠けていること、2つ目は、税の議論がなされているか、3つ目は、住民の声が反映されず発言の機会がないというものだった。私も心当たりがある内容で、改めて議案に対してもっと丁寧に審議するなど、考えさせられる講演だった。次のパネルディスカッションでは、「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」について、4人のパネリストそれぞれから、投票率低下の背景、議員のなり手不足における小規模及び大規模自治体の課題、議会のハラスメント対策等について報告があった。今後、自分たちに置き換えても必要であろうハラスメント対応について、気づくことができた。

2日目は「議員のなり手不足問題への取組報告」と題し、大正大学教授の江藤氏がコーディネーターとなり、3名の議員が事例報告を行った。中でも目黒区議会議員のママインターンの活動を通じ、女性の声を政治につなげるための取組に共感を覚えた。子育てをしている女性に自治体議員のインターン生として活動してもらうことにより、リアルな生の声を議会や市政に届けるこ

とができ、よい着想だと感じた。午後からは北九州市の若松区を中心とした環境未来都市の視察に、他市の議員と合わせて約40名で伺った。エコタウンセンターでは、様々なリサイクル事業について学び、ボートレース若松ではファミリーや女性が来場しやすくする工夫に感心した。シャボン玉石けんでは、無添加石けんと合成洗剤の違いを教わり、早速自宅の洗剤の成分を確かめるなど合成洗剤による環境への影響について考えさせられた。高塔山公園は、何十年ぶりかに伺った場所だったが当時に比べて山頂付近の道路が整備され、新たな撮影スポットも設置されており、夜景の綺麗なところだった。

3日目は、同じく若松区の響灘洋上風力関連施設に伺い、間近で見る風車の大きさと回転するブレードの迫力に凄さを感じ、その後、洋上風力への取組について学び、大変勉強になった。最後の視察場所となった日本サバイバルトレーニングセンターは、様々な状況を想定しての訓練が行われており、今後の洋上風力発電施設の開発にとって、大変重要な訓練施設だと感じた。

今回、他市の議員の取組を学び、また、環境都市のトップランナーである北九州市の様々な施設を視察できたことは、今後の議員活動にとって大変有意義であった。